

ヒューミアイ

形式－BLE形

デジタルヒューミディスタット
2ヒューミ形

S/AGnoMIX



1. はじめに

このたびは、「ヒューミアイ」をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前に、取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
なお、お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる場所に**必ず保管してください。**

2. 安全上のご注意

⚠ 警告 下記の注意を守らないと火災・感電・故障の原因となります

- 水や油のかかる所や湿度の多い所で使わないでください。
- 引火性ガス、腐食性ガス(硫化ガス、アンモニアなど)を含む環境下で使用したり、保存しないでください。
- 内部に金属類や燃えやすい物を入れないでください。
- 配線、保守点検の際は、必ず電源を切ってから行ってください。感電の恐れがあります。
- ヒューミ本体内部には高電圧の箇所がありますので、通電中は手を触れないでください。
- 過電流遮断器を設置してください。
「電気設備に関する技術基準」、「労働安全衛生規則」などの関連法規に従って保護装置(漏電遮断器、配線用遮断器、ヒューズなど)を設置してください。
- 電源電圧・配線が合っているか必ず確認してください。特にセンサ端子へ電源線を絶対に接続しないでください。
- 改造、分解、修理は絶対にしないでください。

⚠ 注意 下記の注意を守らないと本器の損傷及び性能を損なうことがあります

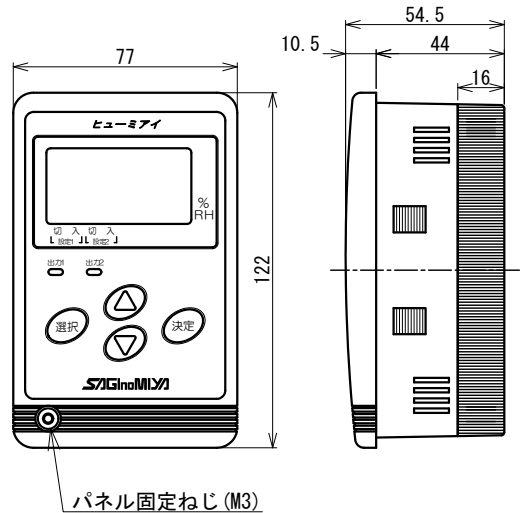
- 本体及び湿度センサを、次の場所に取り付けて使用したり、保存したり、運搬しないでください。
 - ・機械的振動、衝撃の大きい所。
 - ・塵ほこりの多いところ、害虫が発生するところ、塩分、鉄分の多い場所。
 - ・シリコンガスの発生するところやシリコン含有製品の近く。
 - ・湿度90%RH以上の場所、結露の恐れがある場所。
 - ・薬品、有機溶剤、蒸気、湯気のかかる場所。
 - ・風雨がかかる所、直射日光のあたる所。
- 電磁波を発生する機器にお使いの場合には、特に十分な作動確認を行い誤作動に注意してください。電磁波による影響を避けるため、電磁波の発信面を直接向けないようにしてください。
- 強い高周波ノイズを発生する所では使用しないでください。
- ノイズ、電磁波を発生する機器を使用される場所に取り付ける場合には、電磁波を発信する機器との距離は3m以上離してください。また、システムの電源にノイズが発生している場合には、ノイズフィルタを取り付けるなどの処置が必要です。
- センサリード線は(誘導ノイズの影響を回避するため)電源線、負荷線とは30cm以上離してください。
- 操作パネルのキーを先端が尖ったもので押さないでください。
- パネル及びケースの清掃をする場合は、“中性洗剤”を含ませた布をかたく絞り拭いてください。シンナー、ベンジンなどの有機溶剤、強酸、強アルカリ性のものは表面を傷めますので使用しないでください。
- 表示部にはLCDを使用しております。LCDの特性上、斜めから表示が読みづらい場合があります。
- 表示部(LCD)を強く押さないでください。表示(液晶表示)が見えにくくなります。
- 表示部を布でこする等して静電気が発生すると、表示部に模様が出ますがしばらくすると自然に放電により消えます。異常ではありません。
- 停電後に通電開始された場合は、メモリーにバックアップされた作動モード、設定値、キャリブレーション値を読み出して自動復帰しますが、安全のため本製品を含む全システムが完全に機能することを確認してください。

3. 仕様

| | | | | | |
|-------------|---------------|--|--------------------------------------|--------------------------------|----------|
| 形 式 | | 2出力形 | | BLE-SD12-010 | |
| 電 源 電 圧 | | | | AC85V～AC264V フリー電源 | |
| 消 費 電 力 | | | | 5VA以下 | |
| 本体使用周囲温度/湿度 | | | | -10℃～50℃／90%RH以下（但し、結露・氷結なきこと） | |
| 保存周囲温度/湿度 | | | | -20℃～70℃／90%RH以下（但し、結露・氷結なきこと） | |
| 機 能 | 湿度表示範囲 | | ※1 | | 20～99%RH |
| | 湿度設定範囲 | | 30～90%RH | | |
| | 出荷時の 湿度設定値 | 切値1 | 切値 | 60%RH | |
| | | | 入値 | 63%RH | |
| | | 切値2 | 切値 | 61%RH | |
| | | | 入値 | 64%RH | |
| | 湿度表示単位 | | 1%RH単位 | | |
| | 出力種類 | | リレー接点出力（無電圧出力） | | |
| 出力許容電流 | | AC250V 10A（抵抗負荷：cosφ=1） AC250V 6A（誘導負荷：cosφ=0.7） AC250V 3A（誘導負荷：cosφ=0.4） ※突入電流が出力許容電流以下の負荷を使用してください。 | | | |
| 付属センサ形式 | | | ※2 HEK-I1R001（感湿素子形式IHK-60T0-C04） | | |
| センサ使用周囲温度 | | | 0～50℃ | | |
| センサ使用周囲湿度 | | | 30～90%RH | | |
| センサ保存周囲温度 | | | -20～50℃ | | |

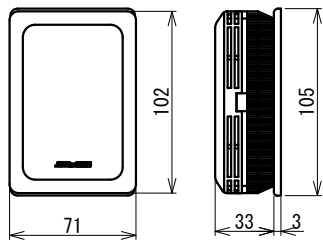
- ※1 湿度表示が範囲外に外れた場合、または断線/ショートの場合は”Lo”または”Hi”が点灯します。
- ※2 感湿素子IHKは、経年変化の少ない安定した素子ですが、長年ご使用いただきますと僅かながら変化します。最良の制御を行うためには定期的に素子を交換するか、本体のキャリブレーション機能を使って補正してください。
- (例)一般事務室の環境で1年間に1%RH程度BLEの表示が低い値を示す可能性があります。(経年変化の度合いは、ご使用の環境に左右されます。)

- ヒューミディスタット本体 質量:約0.2kg



- 湿度センサ

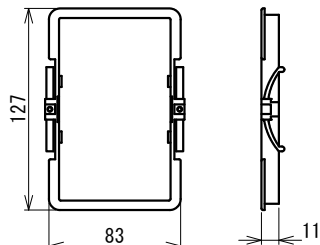
形式: HEK-I1R001



感湿素子
形式IHK-60T0-C04は
湿度センサに付属しています。

※リード線は付属していません。
3芯シールド線を別途ご用意ください。

- パネル取付パーツ (オプション部品)
形式: ALE-AA02 (パッキン付)



本体取り付け時に
パネルに埋め込む場合、
本体固定にご使用ください。

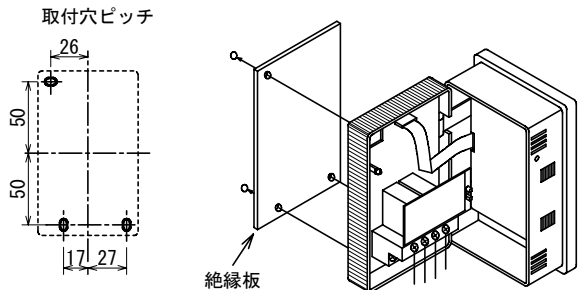
4. 取付方法

本製品は塵埃のない屋内の壁面や装置の筐体内部など安定した場所に取り付けてください。湿度センサは空気の淀んでいるところを避けて、空気の流れのあるその湿度を代表するところに取り付けてください。

1. ヒューミディスタット本体の取付け

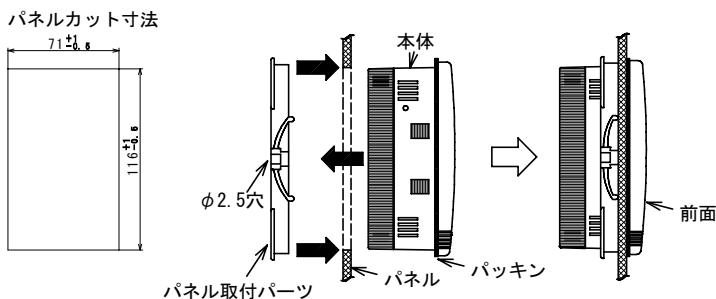
●壁取付けの場合

- ①パネル固定ねじを緩めます。
(軸径6mm以下の+ドライバをご使用ください。)
- ②パネルを右側に開きます。
※ケースとパネルはヒンジで繋がっており、ケース外すことは出来ません。
- ③ケースに開いている3つの穴を任意にお使いいただき、M4タッピングねじ等で本体を壁面へ固定します。
必要に応じて絶縁板を本体と壁の間に挟んでください。



●パネル埋め込みの場合

- ①あらかじめパネルにパネルカット寸法の穴を開けます。
- ②①の裏面からパネル取付パーツ (オプション部品) をあて、パネルを挟むように表側から本体を挿入し固定します。
本体がパネルにしっかり固定されるまでパネル取付パーツを押し込んでください。
※パネルの板厚は1.0mm～5.0mm



誤った取り付け方

取付パーツとパネルは隙間なく取り付けてください。

取付パーツとパネルの間に隙間がある。

取り外し方

取付パーツ裏側の溝にマイナスドライバー等、先の細い物を差し込み、引っ掛かりを外してください。

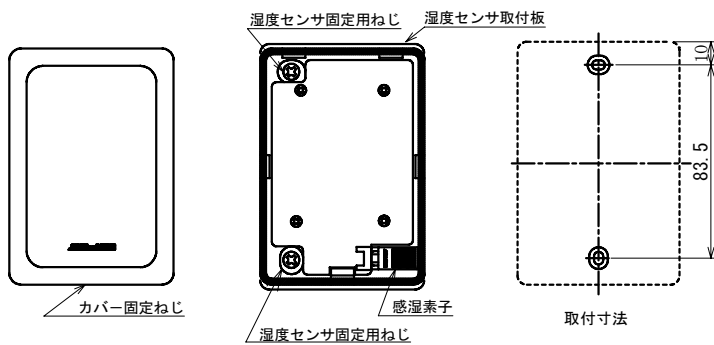
本体の前面とパネルの間は、正しく取り付けすることでIP44準拠した保護構造となっております。性能を確保するため、必ず保護パッキングを使用して取り付けを行ってください。誤った取り付けをすると、保護構造の機能を損なうことになります。

取付パーツは斜めにならないようにパネルと平行に隙間なく嵌めてください。

ガタが残る場合は取付パーツのφ2.5穴を使い、ねじ(M3×14タッピングねじ)を締めてガタをなくしてください。ねじを強く締めすぎると取付パーツがストップより外れる恐れがありますので注意してください。

2. 湿度センサの取付け

- ①カバー固定ねじを緩めます。
- ②湿度センサから湿度センサ取付板を外します。(湿度センサ固定用ねじ2ヶ所)
- ③M4ねじ、4mmタッピングねじ等(2ヶ所)で湿度センサ取付板を壁に固定します。
- ④湿度センサ取付板に湿度センサをねじで固定します。
- ⑤カバーを固定ねじで取付けます。

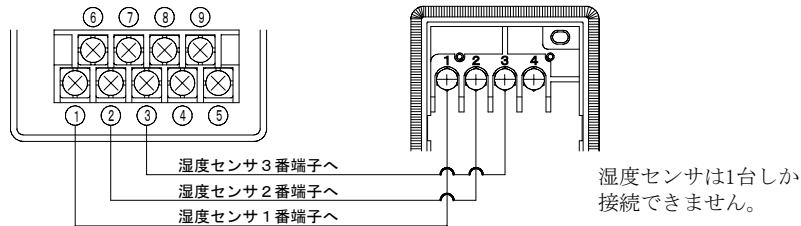


カバーを開けた状態

5. 結線方法

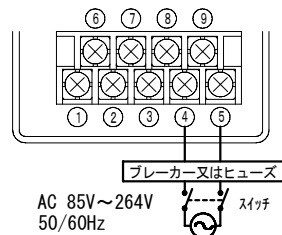
結線時には、必ず電源を切ってから結線を行ってください。また、結線終了時は、必ず結線を確認し、パネルを固定ねじで確実に締めてから通電してください。
パネル固定ねじの締付トルクは0.5N・mです。
ヒューミディスタット本体の結線はM3.5用圧着端子を、湿度センサの結線にはM4用圧着端子を使用して確실히行ってください。各端子のねじの締付けトルクは0.6N・mです。
センサの結線には3芯シールド線 (マイクロホンコードなど) をご使用ください。(本製品には付属しておりません。) また、シールド線の一端を接地してください。
線の引き出しは、引き出し方法に合わせて、ロックアウト部もご利用ください。

●湿度センサを結線します。



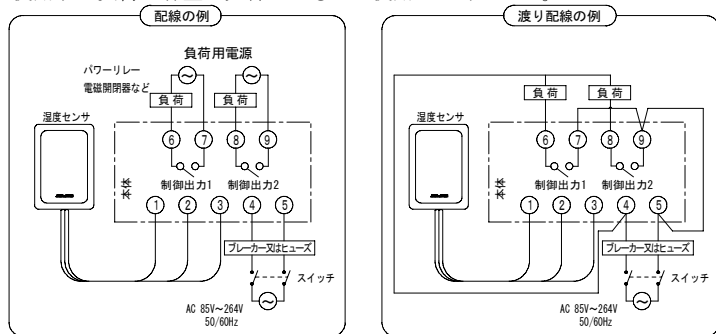
●電源を結線します。

AC85V～AC264Vの電源をつないでください。AC264V以上の電圧を加えた場合、破損、誤作動をまねく恐れがあります。



●負荷および負荷用電源を結線します。

⑥-⑦端子間は制御出力1、⑧-⑨端子間は制御出力2です。出力はリレー接点出力 (無電圧出力) ですので、負荷用の電源は外部から供給してください。
渡り配線の場合は右下の例を参考に配線してください。但し、ブレーカー又はヒューズは使用する負荷の容量に見合ったものを使用してください。

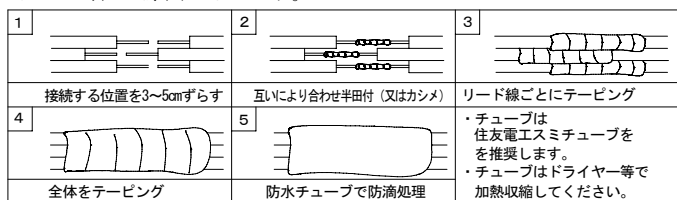


⚠ 注意 下記の注意を守らないとけがをしたり本器の損傷及び性能を損なうことがあります

- 結線終了後は必ず結線を確認してください。短絡電流が流れると故障します。
- 結線は、全て電気設備技術基準に従って電気知識を有する専門家が行ってください。
- 配線のヒゲなどで他端子と接触していないか確認してください。
- 制御出力に接続する負荷の電流値は、出力許容電流値を超えないように注意してください。
- モータやコンプレッサなどの容量性負荷や誘導性負荷は定格電流の10倍近い突入電流が流れる場合があります。接点が溶着する恐れがありますので、必ず「パワーリレー」「電磁開閉器」などをご使用ください。
- 誘導性負荷の遮断時にはその種類によってリレー接点間に大きな逆起電圧が発生しサージノイズ源となることがあります。このサージノイズが特に大きい場合にはコントローラが誤作動、破壊するのを防止するためにサージ吸収素子 (岡谷電機産業㈱製のスパークキラーなど) を取付けることをお勧めします。
- 動作頻度が高い場合は、負荷の容量と内蔵リレーの寿命を考慮 (外付リレーを取付けるなど) し、ご使用くださるをお願いします。
- 空き端子は、中継端子として使用しないでください。
- 端子間の絶縁試験、耐電圧試験は内部の電子部品を破壊する恐れがありますので行わないでください。
- 付属の湿度センサ以外は使用しないでください。
- センサ接続端子①②③には絶対に電源を接続しないでください。ヒューミスタット本体が破損します。
- 圧着端子は必要がある場合は2段重ねとし、それ以上は重ねて配線しないでください。
- 湿度センサを次の場所へ取り付け使用しないでください。
 - ・周囲の空気が淀み、空気の流れがない場所。
 - ・結露の恐れがある場所や雨水、直射日光を受ける場所。
 - ・塵、ほこりの多い場所やアンモニア等の腐食性ガスが発生する場所。特に塩分、アセトン、アンモニア、酢酸等の有機性ガスや蚊取り線香等の煙が多い場所。

湿度センサのリード線を延長する方法

- ・リード線の延長は100m以下としてください。(電線は3芯シールド線を使用ください)
- ・屋外及び結露する雰囲気での延長には耐候性のある電線を使用して接続部を防水型の熱収縮チューブ等で絶縁処理を行なうか、防水ケース内で延長接続してください。
- ・半田付、カシメなど確実な方法で接続した後、テーピングで防滴、絶縁処理をしてください。(下図参照)
- ・接続部は雨水、結露がない場所に設置してください。
- ・防水・絶縁が不十分な場合、作動不良 (湿度表示のフラツキ、出力のチャタリング等) の原因になります。



6. 設定方法

操作パネルの説明

●操作部

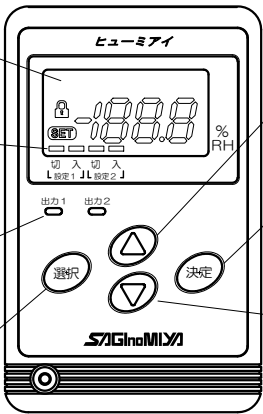
■現在湿度／設定湿度表示
現在湿度または設定湿度を表示します。

■設定ポジションバー
各モードが選択された時に点灯します。

■出力表示LED
制御出力が“入”になるとLEDが点灯します

■選択キー
設定モードを選択することができます。

(ヒューミディスタット本体)



■SETキー（アップ）
設定中にこのキーを押すと設定値が上がります。

■決定キー
設定が終了したらこのキーを押します。値がメモリに記憶されます。

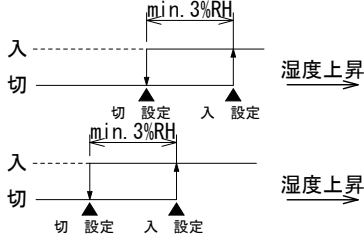
■SETキー（ダウン）
設定中にこのキーを押すと設定値が下がります。

作動説明

2ヒューミ形は下記のように作動させることができます。

●除湿2ステップ作動の場合

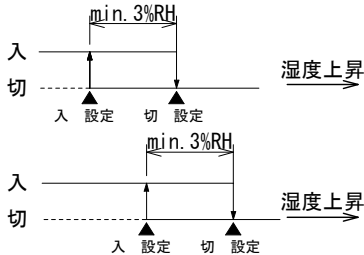
制御出力1
⑥－⑦端子間
または
制御出力2
⑧－⑨端子間



除湿作動の場合には必ず[切]設定値を[入]設定値より低くしてください。

●加湿2ステップ作動の場合

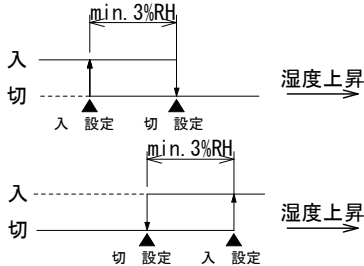
制御出力1
⑥－⑦端子間
または
制御出力2
⑧－⑨端子間



加湿作動の場合には必ず[入]設定値を[切]設定値より低くしてください。

●フローティング作動の場合

制御出力1
⑥－⑦端子間
または
制御出力2
⑧－⑨端子間



フローティング作動では除湿作動と加湿作動が同時に設定でき、それぞれ独立して作動します。

[切][入]設定値をそれぞれ入力します。

[切]設定値を変更しても[入]設定値は変わらず、[切]設定値だけ変化します。（DIFFが変わります）

[入]設定値を変更しても[切]設定値は変わらず、[入]設定値だけ変化します。（DIFFが変わります）

制御出力1の設定を変更しても制御出力2の設定値は変化しません。

また、制御出力2の設定を変更しても制御出力1の設定値は変化しません。

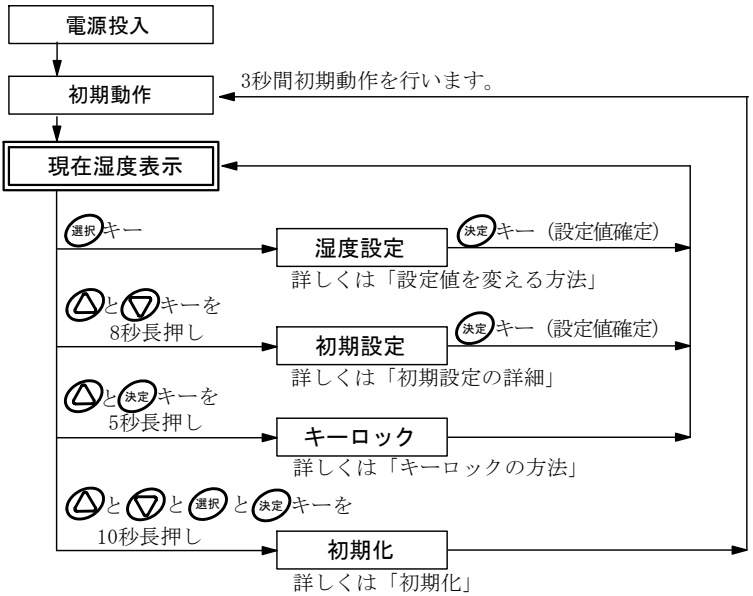
[入]、[切]設定値差（DIFF）の最小値は3%RHですが、必要以上に小さくしないでください。

小さくしすぎると制御出力リレーが頻繁にON－OFFし、ヒューミディスタット本体及び除湿機、加湿器等の負荷の寿命が短くなります。

2ヒューミ形には標準形の除湿／加湿作動設定や[選択]キー長押し機能はありません。

設定は△と▽キーの長押しで早送りすることができますが、2ヒューミの場合、入切設定が逆転するポイントで一度早送りが止まります。

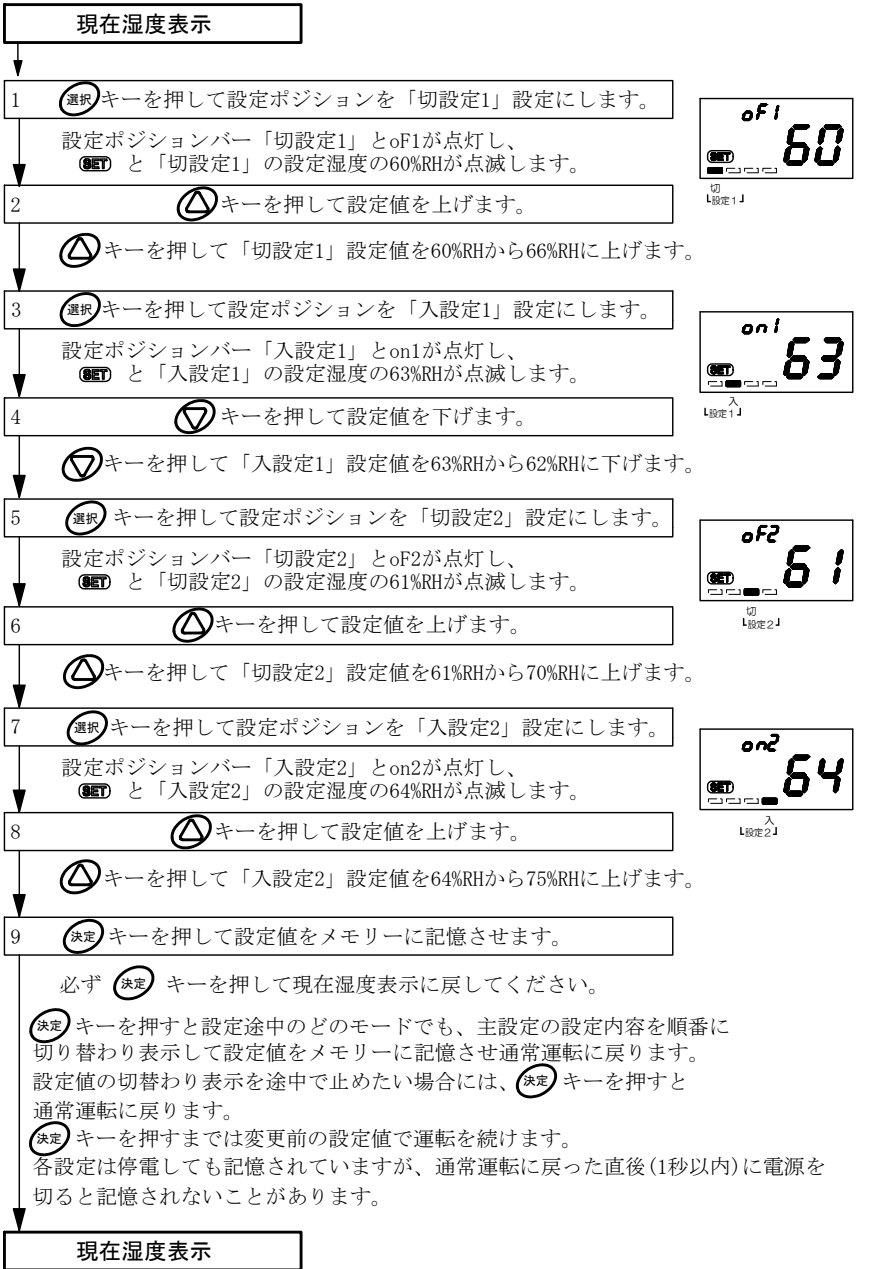
操作の基本説明



設定値を変える方法

制御出力1、2の入、切設定値を変えて、除湿作動設定を加湿作動設定に変えたりフローティング作動設定に変えたりする場合の説明です。各設定値は独立して変化しますので、都度入切設定値差（DIFF）や制御出力1、2間のステップ差が変わります。

（例）BLE-SD12-010の作動設定を変える場合の操作方法
[切1]設定値60%RH、[入1]設定値63%RH、[切2]設定値61%RH、[入2]設定値64%RHの加湿作動設定を、
[切1]設定値66%RH、[入1]設定値62%RH、[切2]設定値70%RH、[入2]設定値75%RHのフローティング作動設定に変える場合

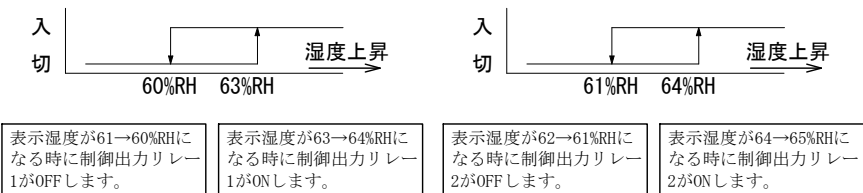


この変更によって、作動は次のようになります。

BLE-SD12-010の場合

制御出力1、切設定値60%RH、入設定値63%RH

制御出力2、切設定値61%RH、入設定値64%RH





表示湿度が61→60%RHになる時に制御出力リレー1がOFFします。

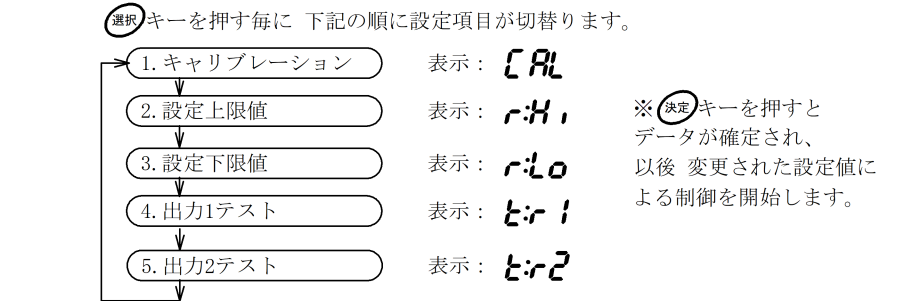
表示湿度が63→64%RHになる時に制御出力リレー1がONします。

表示湿度が62→61%RHになる時に制御出力リレー2がOFFします。



表示湿度が64→65%RHになる時に制御出力リレー2がONします。



初期設定の詳細

初期設定では、ご使用になる操作の設定や動作確認を行います。
現在湿度表示中に  と  キーを約8秒間 長押しする事で、初期設定が行えるようになります。



1. キャリブレーション

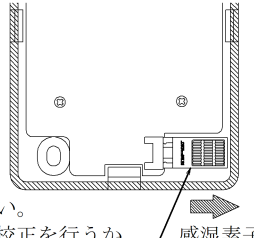
・ キーの操作により、キャリブレーション値を入力すると、計測した湿度値、及び 制御値を補正することができます。
設定範囲は-10 ～+10%RH で、設定単位は 1%RHです。




交互に表示
キャリブレーション値 キャリブレーションされた表示値

●感湿素子の交換

感湿素子を下記の形式でお求めください。
形式 IHK-60T0-C04
交換方法
① 必ず電源を切ってセンサのカバーを外してください。
② 感湿素子を引き抜きます。
③ 新しい感湿素子を差込みます。
④ センサのカバーを取り付けてください。
⑤ 電源を入れ、正常に作動していることを確認してください。
⑥ 感湿素子交換以前に補正を行っている場合は、もう一度校正を行うか、キャリブレーション-補正値をゼロに戻してください。



**注意** 下記の注意を守らないと 本器の損傷及び性能を損なうことがあります

- キャリブレーションは必ず測定する湿度が一定で変化のない時に、精度の高いアスマン形湿度計などの基準となる湿度計を使って正しく行ってください。
湿度計での湿度の確認は、湿度が温度により大きく変化しますので湿度センサと同じ場所で行ってください。
- キャリブレーションした湿度以外ではズレが大きくなる場合がありますので注意してください。
- 感湿素子は、テスト等直流電圧が印加される計器での特性チェックはできません。
また、素子を破損しますので絶対に行わないでください。

2. 設定上限値

設定可能範囲を制限することができます。
入力上限値は、90%RH、設定単位は1%RHです。
※設定下限値との最少設定差は10%RHとなります。





3. 設定下限値



設定可能範囲を制限することができます。
入力下限値は、30%RH、設定単位は1%RHです。
※設定上限値との最少設定差は10%RHとなります。





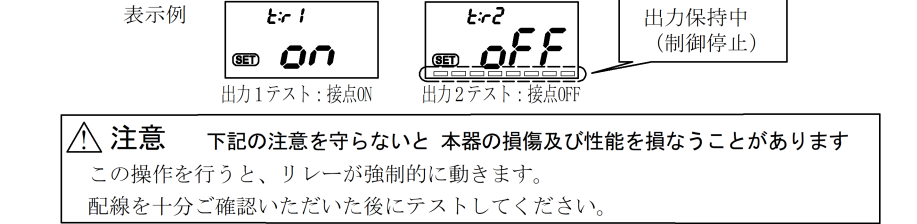
4. 5. 出力1テスト、出力2テスト

出力1、出力2リレーを強制的にON/OFFさせて動作確認することができます。





 キーを押すとリレー接点がONして  表示となり、
 キーを押すとリレー接点がOFFして  表示となります。

 が出力1  が出力2です。

一旦 ・ キーによる操作を行うと、初期設定を終了するまで出力を保持して制御機能を停止します。
出力保持中は、バー表示部が全点灯します。







キーロックの方法







現在湿度表示中に  キーと  キーを約5秒長押しするとキーロック状態となります。
キーロック中は全てのキー操作が出来ません。
キーロックを解除するには、同様に  キーと  キーを約5秒間長押しすることで解除できます。



初期化

現在湿度表示中に  キー・ キー・ キー・ キーを約10秒間押し続けると初期化動作を行います。
初期化動作が正常に終了すると再起動を行い、以後工場出荷時の設定値による制御動作を開始します。初期化は設定値を控えてから実施することをお薦めします。

7. 不具合発生時の処置

| 故障かな？と思ったら・・・ 下表にてご確認ください。 | | |
|---|---|--|
| 不具合現象 | 確認事項 | 対応方法 |
| 表示が ” Lo ” 点灯する | 電源は正しく供給されていますか？ | 電源を正しく供給してください。 |
| | 本体とセンサ間の結線がまちがっていませんか？ | 接続されているセンサを確認してください。 |
| 表示が ” Hi ” 点灯する | センサの湿度が表示範囲から低く外れていませんか？ | センサの取付場所の湿度を確認してください。 |
| | 本体とセンサ間の結線がまちがっていませんか？ | 接続されているセンサを確認してください。 |
| Er. 1になる | センサの湿度が表示範囲から高く外れていませんか？ | センサの取付場所の湿度を確認してください。 |
| Er. 1になる | メモリーエラーです | 一度電源を切ってから再度電源を入れてください。各設定値を再確認してください。エラー表示が消えない時は機器の故障です。 |
|  SET、湿度表示が点滅している | 設定中です。 設定終了、確認後は  キーを押し しましたか？ |  キーを押してください。 現在湿度表示に戻ります。 |
|  キーを押しても設定 ポジションが選択できない | キーロックされていませんか？ |  キーと  キーを同時に 約5秒押ししてキーロックを 解除してください。 |
| 制御出力が切れない または 制御出力が入らない | 現在湿度が『切』設定値と『入』設定値 の間にありませんか？ | センサの湿度を上げ下げして 一度ヒューミを『入』あるいは『切』 にしてください。 |
| 設定通り『入』『切』しない | 設定値 (特に『入』値) が変更されて いませんか？ | 設定値をもう一度 ご確認ください。 |
| 出力表示バーが点灯している がリレー出力しない | 負荷に電源が供給されていますか？ | 本製品の接点は無電圧接点です。 負荷の電源を接続してください。 |
| | リレーの焼損が考えられます。 ・定格以上の電流が印加されませんでしたか？ ・短絡電流が印加されませんでしたか？ | ・負荷の容量をご確認ください。 ・結線方法をご確認ください。 |
| 出力表示バーが消灯している がリレー出力しない | リレー接点の溶着が考えられます。 | 負荷の容量をご確認ください。 |
| 表示がちらつく (2%RH以上の 表示とびがする) | センサの中継部分の絶縁は完全ですか？ 本体の内部が結露していませんか？ | センサ中継部の絶縁を完全に 行ってください。 中継部絶縁には収縮チューブ (スミチューブ®) を推奨します。 |

上記に該当しない現象が発生した場合は、当社までご連絡ください。

8. 作動確認

本製品をご使用になるお客様（以下、「お客様」といいます。）は、ご使用の際、本製品を正しく取り付け後、必ず試運転を実施し 全システムが完全に機能することを確認してください。
本製品の不適切な取り付けにより、結果としてお客様の機械・装置において、人身事故、火災事故、多大な損害の発生などを生じさせないよう、フェールセーフ設計¹⁾、延焼対策設計による安全設計を行い必要な安全の作り込みを行っていただくと共に、フォールトトレランス²⁾などにより要求される信頼性にも必ず適合できる状態に正しくご調整くださいますようお願いいたします。
注¹⁾ フェールセーフ設計：機械が故障しても安全なように設計する。
注²⁾ フォールトトレランス：冗長性技術を利用する。

本製品の定期的な検査
最低 年1回は作動の確認を必ず実施し、その記録を残してください。

お客様がこれらを怠ったことにより、お客様に損害が発生した場合、当社はあらゆる損害賠償責任から免責されるものといたします。ただし、お客様に生じた損害が 本製品の製造過程における瑕疵による場合はこの限りではありません。

9. 使用上の制限

本製品は、生命にかかわるような状況下で使用される機器又はシステムに用いることを目的として設計・製造されたものではなく、冷暖房及び冷凍空調装置用又は各種産業装置用に用いることを目的（以下、「本目的」といいます。）として設計・製造されたものです。
従いまして、下記1)～3)に関する分野における本製品の使用は一切予定しておりません。これらの分野について本製品を使用され、それにより損害が発生した場合でも、当社はあらゆる損害賠償責任から免責されるものといたします。

- 1) 原子力・放射線関連
- 2) 宇宙・海底機器関連
- 3) 装置・機器の故障及び動作不良が、直接又は間接を問わず、生命、身体、財産などへ重大な損害を及ぼすことが通常予想されるような極めて高い信頼性を要求される機器

なお、上記1)、2)に関する装置、分野であっても、本目的に沿う用途で使用される場合に限り、及び、下記4)～10)に関する分野に使用される場合は、当社営業担当窓口へ必ずご連絡のうえ書面による同意を得ていただきますようお願いいたします。
万が一、当社営業担当窓口へのご連絡及び同意なくこれらの分野に本製品が使用され、それにより損害が発生した場合は、当社はあらゆる損害賠償責任から免責されるものといたします。

- 4) 可燃性及び/又は毒性冷媒を使用する冷暖房及び冷凍空調装置、又は可燃性及び/又は毒性流体を使用する各種産業装置
- 5) 輸送機器（鉄道・航空・船舶・車両設備など）
- 6) 防災・防犯機器
- 7) 医療機器、燃焼機器、電熱機器、娯楽設備、課金に直接関わる設備／用途
- 8) 電気、ガス、水道などの供給システム、大規模通信システム、交通・航空管制システムで高い信頼性が必要な設備
- 9) 官公庁 若しくは各業界の規制に従う設備
- 10) その他、上記4)～9)に準ずる高度な信頼性、安全性が必要な機械・装置

使用条件・使用環境にも影響されますが、仕様書や取扱説明書に使用期間の記載がない場合は5年～10年を目安に製品のお取替えをお願いいたします。

10. 保証範囲

本製品を使用したお客様の製品に故障が生じ、その原因が本製品の瑕疵による場合、お客様への納入後1年以内に限り、納入した本製品の代替品の提供または修理品の提供を無償で行わせていただきます。ただし、お客様の製品の故障により生じた損害のうち、当社が負担する割合は、納入した本製品の価格を上限とさせていただきます。また、お客様の製品の故障が下記事由に基づく場合は、当社はあらゆる損害賠償責任から免責されるものといたします。

- 1) お客様による本製品の不適当な取扱いならびにご使用の場合。
(カタログ、仕様書、取扱説明書などに記載されている条件、環境、注意事項などの不遵守)
- 2) 故障の原因が、本製品以外の事由の場合。
- 3) 当社もしくは当社が委託した者以外の改造または修理による場合。
- 4) 「使用上の制限」に反し本製品が使用された場合。
- 5) 当社出荷当時の科学・技術水準では予見不可能であった場合。
- 6) その他、天災、災害、第三者による行為などで当社側の責にあらざる場合。

なお、インターネットオークションなどで本製品を購入された場合、上記の保証は一切受けられませんのでご注意ください。

問合せ先

株式会社 鷺宮製作所

本社/〒169-0072 東京都新宿区大久保3-8-2
新宿ガーデントワー22階
URL <http://www.saginomiya.co.jp>

営業本部 / 東京 03-6205-9140 大阪支店 / 大阪 06-6385-8011

本製品に関するお問い合わせは、お買い求めいただきました販売店
もしくは saginomiya-info@saginomiya.co.jp お問い合わせください。

詳しくは取扱説明書をお読みください

ヒューミアイ
SIGMA

基本操作説明書

BLE形 2ヒューミ形

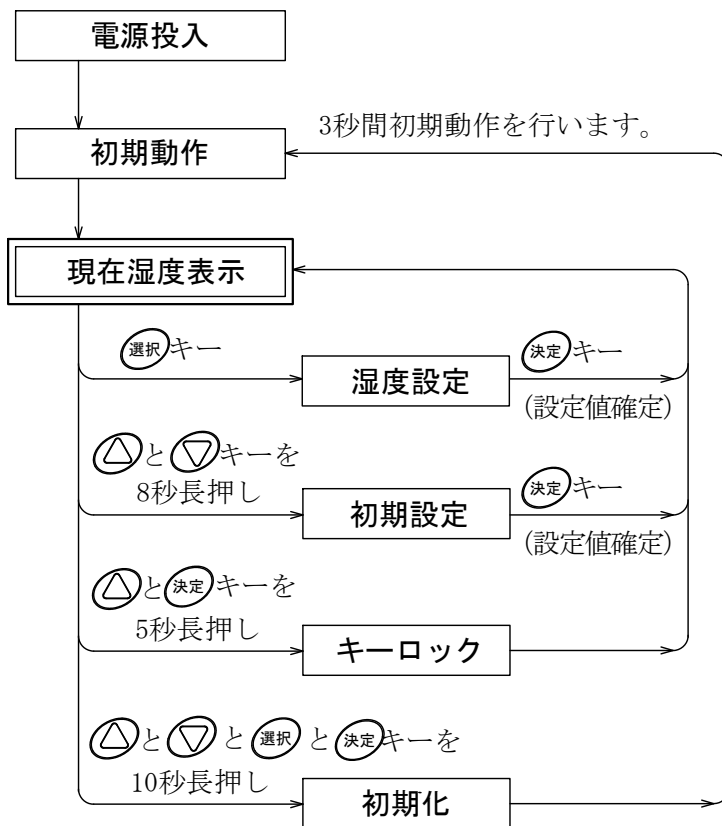
操作パネルの説明

●操作部

(ヒューミディスタット本体)



操作の基本説明



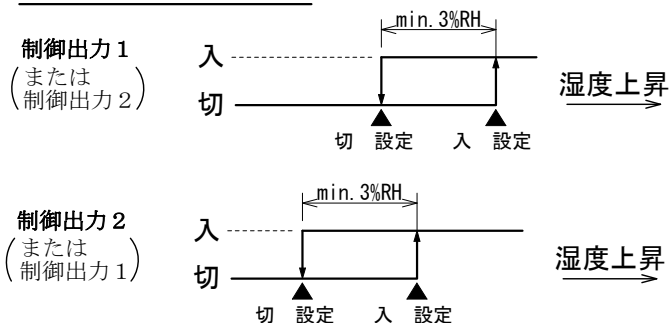
作動説明

「切」「入」設定値をそれぞれ入力します。

「切」設定値を変更しても「入」設定値は変わらず、「切」設定値だけ変化します。(DIFFが変わります)

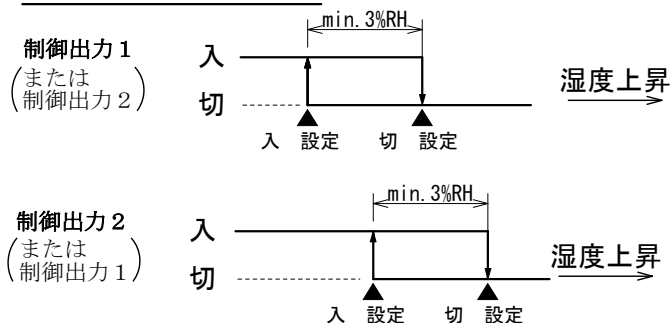
「入」変更の場合も同様です。

●除湿2ステップ作動の場合



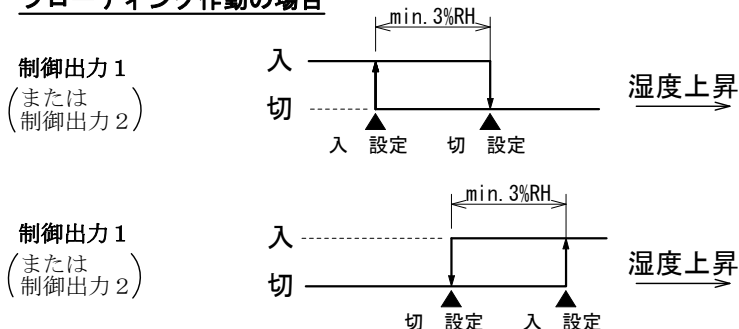
除湿作動の場合には必ず「切」設定値を「入」設定値より低くしてください。

加湿2ステップ作動の場合



加湿作動の場合には必ず「入」設定値を「切」設定値より低くしてください。

フローティング作動の場合

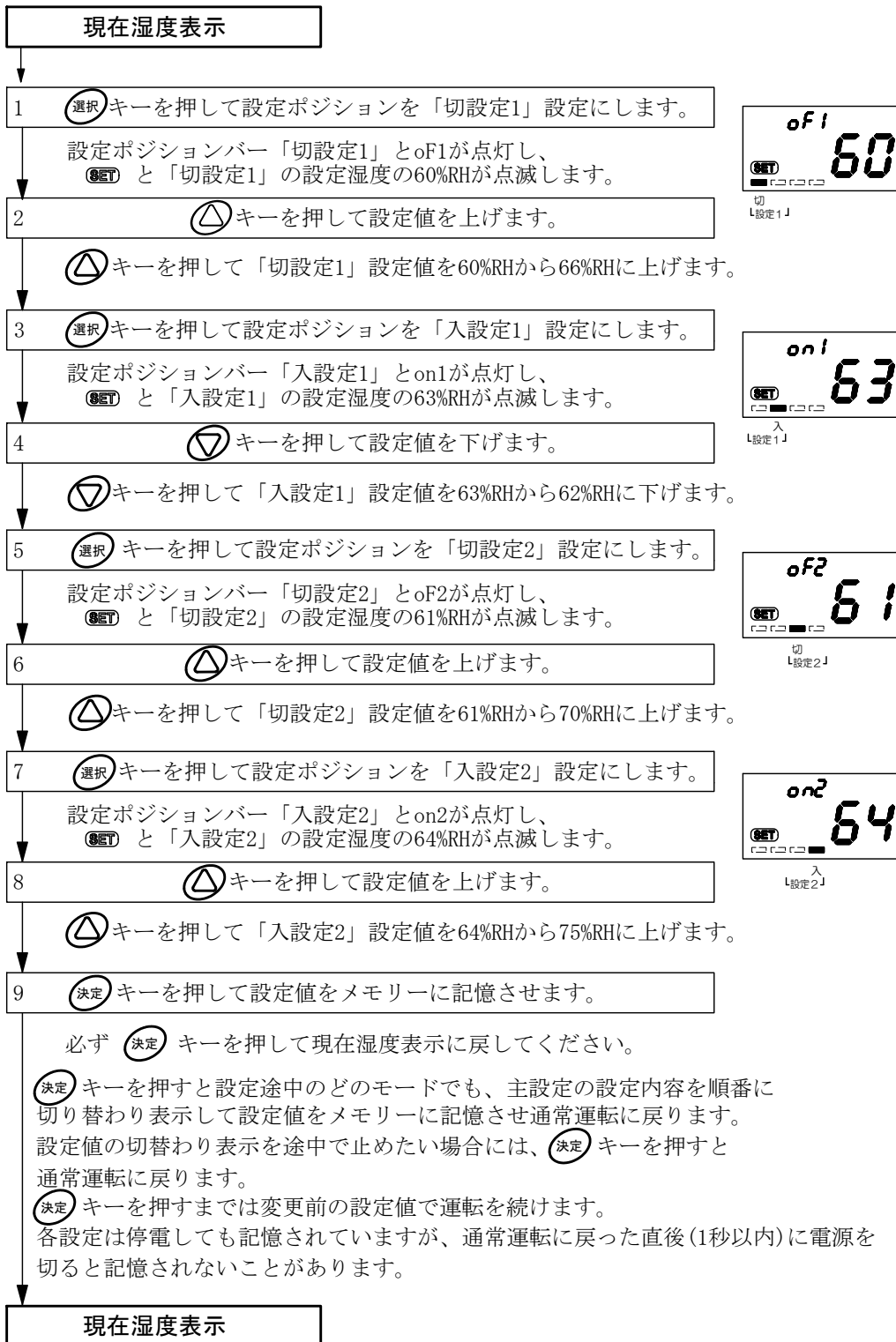


フローティング作動では除湿作動と加湿作動が同時に設定でき、それぞれ独立して作動します。

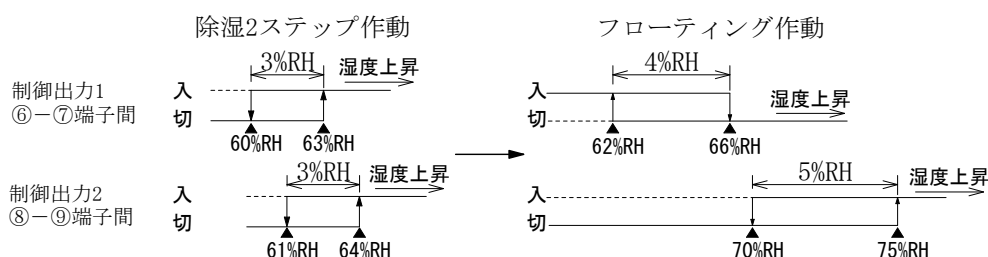
設定値を変える方法

(例) BLE-SD12-010の作動設定を変える場合の操作方法

[切1]設定値60%RH、[入1]設定値63%RH、[切2]設定値61%RH、[入2]設定値64%RHの加湿作動設定を、
[切1]設定値66%RH、[入1]設定値62%RH、[切2]設定値70%RH、[入2]設定値75%RHのフローティング
作動設定に変える場合



この変更によって、作動は次のようになります。



問合せ先

株式会社 鷺宮製作所

URL : <http://www.saginomiya.co.jp>
E-mail : saginomiya-info@saginomiya.co.jp

営業本部 / 東京 03-6205-9140
大阪支店 / 大阪 06-6385-8011